



## 『 インターフェロンを使わないC型肝炎治療 』

---

平成4年にC型肝炎のインターフェロン治療が始まりました。

インターフェロンと他の抗ウイルス薬を併用することで治療効果は次第に高くなり、現在は8割から9割の患者さんを治すことができるようになりました。

しかし、インターフェロンには発熱や関節痛、脱毛の他にも様々な副作用があり、間質性肺炎やうつ病などの誘発による死亡の報告もあるため、危険を伴うつらい治療という印象を持つ患者さんが多いようです。実際に高齢者や持病の多い患者さんでは、治療のつらさや持病の悪化等で治療が中止になることも多くありました。

ところが、平成26年9月からインターフェロンを使わない抗ウイルス薬（内服薬）だけの治療が始まりました。

この治療は副作用が少なく、効果も従来の治療とほぼ同等で約8割の患者さんが治ります。また、今迄と同様に鹿児島県の助成制度も受けられます。

しかし、数%の患者さんに肝障害の副作用があることや、進行した肝硬変の患者さんには使えないこと、また、ウイルスの型（現在は1型のみ適応）や薬剤耐性の問題もありますので、治療については医師に御相談下さい。



鹿児島県厚生連  
肝臓内科部長  
馬場 芳郎